

原発に依存しない持続可能な社会を

3・11 東北関東大震災と、それに伴う津波の被害だけでなく、東京電力福島第1、第2 原子力発電所の事故によって、よりっそう深刻な事態が進行しています。

現在、放射性物質の大量放出を食い止める必死の努力が続けられており、汚染の拡大を防ぐことが急務ですが、原発の実態について、私たちはもっと知らなければと思い、生前、現場を知る技術者として精力的に講演しておられた平井憲夫さんの講演記録から、一部抜粋してお伝えすることにしました。(内容は1996年のものです)

全文は、<http://www.iam-t.jp/HIRAI/pageall.html#page1>

「原発がどんなものか知ってほしい」をお読みください。

いいかげんな原発の耐震設計

阪神大震災後に、慌ただしく日本中の原発の耐震設計を見直して、その結果を9月に発表しましたが、「どの原発も、どんな地震が起きても大丈夫」というあきれたものでした。私に関わった限り、初めのころの原発では、地震のことなど真面目に考えていなかったのです。それを新しいのも古いのも一緒くたにして、大丈夫だなんて、とんでもないことです。

1993年に、女川原発の1号機が震度4くらいの地震で出力が急上昇して、自動停止したことがありますが、この事故は大変な事故でした。なぜ大変だったかという、この原発では、1984年に震度5で止まるような工事をしているのですが、それが震度5ではないのに止まったんです。わかりやすく言うと、高速道路を運転中、ブレーキを踏まないのに突然急ブレーキがかかって止まったと同じことなんです。これは、東北電力が言うように「止まったからよかった」というような簡単なことではありません。5で止まるように設計されているものが4で止まったということは、5では止まらない可能性もあるということなんです。つまり、いろんなことが設計通りにいかないということの現れなんです。

こういう地震で異常な止まり方をした原発は、1987年に福島原発でも起きていますが、同じ型の原発が全国で10もあります。これは地震と原発のことを考えるとき、非常に恐ろしいことではないでしょうか。

定期点検工事も素人が

原発は1年くらい運転すると、必ず止めて検査をすることになっていて、定期検査、定検といっています。原子炉には70気圧とか、150気圧とかいうものすごい圧力がかけられていて、配管の中には水が、水といっても300℃もある熱湯ですが、水や水蒸気がすごい勢いで通っていますから、配管の厚さが半分くらいに薄くなってしまふ所もあるのです。そういう配管とかバルブとかを、定検でどうしても取り替えなくてはならないのですが、この作業に必ず被曝が伴うわけです。

原発は1回動かすと、中は放射能、放射線でいっぱいになりますから、その中で人間が放射線を浴びながら働いているのです。

そういう仕事をする人が95%以上まるっきりの素人です。お百姓や漁師の人が自分の仕事が暇な冬場などにやります。言葉は悪いのですが、いわゆる出稼ぎの人です。そういう経験のない人が、怖さを全く知らないで作業をするわけです。

例えば、ボルトをネジで締める作業をするとき、「対角線に締めなさい、締めないと漏れるよ」と教えますが、作業する現場は放射線管理区域ですから、放射能がいっぱいあって最悪な所です。作業現場に入る時はアラームメーターをつけて入りますが、現場は場所によって放射線の量が違いますから、作業の出来る時間が違います。分刻みです。

普通の職場環境とは全く違う

放射能というのは蓄積します。いくら微量でも10年なら10年分が蓄積します。これが怖いのです。日本の放射線管理というのは、年間50ミリシーベルトを守ればいい、それを越えなければいいという姿勢です。

例えば、定検工事ですと3ヶ月くらいかかりますから、それで割ると一日分が出ます。でも、放射線量が高いところだと、一日に5分から7分間しか作業が出来ないところもあります。しかし、それでは全く仕事になりませんから、3日分とか、1週間分をいっぺんに浴びせながら作業をさせるのです。これは絶対にやってはいけない方法ですが、そうやって10分間なり20分間なりの作業ができるのです。そんなことをすると白血病とかガンになると知ってくれていると、まだいいのですが…。電力会社はこういうことを一切教えません。

稼働中の原発で、機械に付いている大きなネジが一本緩んだことがありました。動いている原発は放射能の量がものすごいですから、その一本のネジを締めるのに働く人30人を用意しました。一列に並んで、ヨーイドンで7メートルくらい先にあるネジまで走って行きます。行って、1、2、3と数えるくらいで、もうアラームメーターがピーッと鳴る。中には走って行って「ネジを締めるスパナはどこにあるんだ？」と言ったら、もう終わりの人もいます。ネジをたった一山、二山、三山締めるだけで160人分、金額で400万円くらいかかりました。

なぜ、原発を止めて修理しないのかと疑問に思われるかもしれませんが、原発を一日止めると、何億円もの損になりますから、電力会社はできるだけ止めないのです。放射能というのは非常に危険なものです、企業というものは、人の命よりもお金なのです。

原発は確かに電気を作っています。しかし、私が20年間働いて、この目で見たり、この体で経験したことは、原発は働く人を絶対に被曝させなければ動かないものだという事です。それに、原発を造るときから、地域の人達は賛成だ、反対だと割れて、心をズタズタにされる。出来たら出来たで、被曝させられ、何の罪もないのに差別されて苦しんでいるんです。

だから、私はお願いしたい。朝、必ず自分のお子さんの顔やお孫さんの顔をしっかりと見てほしいと。はたしてこのまま日本だけが原子力発電所をどんどん造って大丈夫なのかどうか、事故だけでなく、地震で壊れる心配もあって、このままでは本当に取り返しのつかないことが起きてしまうと。これをどうしても知って欲しいのです。

ですから私はこれ以上原発を増やしてはいけない、原発の増設は絶対に反対だという信念でやっています。そして稼働している原発も、着実に止めなければならぬと思っています。原発がある限り、世界に本当の平和はこないのですから。

筆者「平井憲夫さん」について

1997年1月逝去。

1級プラント配管技能士、原発事故調査国民会議顧問、原発被曝労働者救済センター代表、北陸電力能登（現・志賀）原発差し止め裁判原告特別補佐人、東北電力女川原発差し止め裁判原告特別補佐人、福島第2原発3号機運転差し止め訴訟原告証人。